

World Wide Views on Climate and Energy
世界市民会議「気候変動とエネルギー」
開催報告書



平成 27 年 7 月
科学技術振興機構

はじめに（報告趣旨）

今年 12 月にパリで開かれる気候変動枠組条約締約国会議（COP21）へ世界各地の市民の声を届けることを目的としたプロジェクトである、World Wide Views Climate and Energy が 6 月 6 日に、世界 96 カ所で一斉に開かれました。約 1 万人の専門家ではない市民が参加として、世界共通の設問について話し合いを行った後、世界共通の選択肢の中から自分の考えに近いものを選んで各自が投票を行いました。

日本では科学技術振興機構（JST）の主催により世界市民会議「気候変動とエネルギー」という名称で開催いたしました。日本の市民 100 人が 15 個のグループに分かれて、午前 10 時から午後 6 時まで議論し、投票を行いました。本報告書では、この投票結果及び自由記述により得られた参加者の意見を記載しております。

本報告書が、日本市民の意見を知る上での参考資料として、今年 12 月の COP21 での交渉につながる、今後の気候変動をめぐる国内外の政策決定過程において活用されることを願っております。

目次

1. World Wide Views について.....	4
2. 世界市民会議「気候変動とエネルギー」の開催結果.....	6
(1) 開催概要.....	6
(2) 開催当日スケジュール.....	6
(3) 世界全体と日本大会の結果.....	7
(4) 日本の独自セッション「私たちの意見」.....	13
資料1 会議結果（世界全体と日本の結果の比較）.....	14
資料2 第6セッション「私たちの意見」.....	25

1. World Wide Views について

World Wide Views は、地球規模課題を扱う国際交渉に世界中の市民の意見を届けることを目的に、デンマーク技術委員会（DBT/Danish Board of Technology）が中心となり開発した手法である。世界各地でそれぞれ 100 人の専門家でない市民が集まって共通のテーマについて議論し、与えられた選択肢に投票して意見を表明する（会議フォーマットの詳細は表を参照のこと）。

第 1 回目は「地球温暖化」をテーマに 2009 年に開かれ、結果は気候変動枠組条約の COP15 に提示された。また第 2 回目は「生物多様性」をテーマに 2012 年に開かれ、生物多様性条約の COP11 に結果が提出されている。

第 3 回目となる今回の World Wide Views on Climate and Energy は、2015 年 12 月の COP21 へ市民の声を届けることを目的とし、以下の 4 組織による共催で実施された。

- ・ Secretariat to the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC)
- ・ The French National Commission for Public Debate (cndp) (フランス)
- ・ The Danish Board of Technology Foundation (DBT) (デンマーク)
- ・ Missions Publiques (フランス)

主催者は、世界共通の情報提供資料の作成、運営様式の設定、全体結果の取り纏め、COP21 への報告を実施する。実際に市民を集めて会議を実施するのは、主催者の呼びかけに応じた各国・各地域のナショナルパートナーであり、今回は 76 の国と地域において合計で 96 の会議が開催され、市民の参加者総数は 9278 名の規模となった。



図. 市民会議開催国・地域の地図

表. World Wide Views の世界共通フォーマット



① 参加者を集める

会議の参加者は、気候変動やエネルギーについてあまり詳しくない非専門家を 100 人集める。参加者の属性（性別、年齢、職業など）の割合は、各国の統計分布をもとに、その国の縮図になるように集める。



② 情報を共有する

会議の参加者に対して、世界中で共通の内容の情報提供資料を会議が開かれる約 2 週間前に送り、当日の議論において参加者全員が前提とすべき内容を共有する。また、会議当日には、テーマ別に 5~10 分ほどの情報提供ビデオを見る。



③ 話し合う

参加者は 7 人ほどのグループに分かれてテーブルを囲み、世界共通の設問に沿って 45~50 分ほど話し合う。今回の会議では全体を複数のセッションに分けて、指定された設問への投票を行う。今回の「気候変動とエネルギー」では、①気候変動対策の重要性、②気候変動対策の手段、③国連交渉と各国の貢献、④負担の分配と公平性、⑤気候変動対策の約束合意と維持、がセッションのテーマとなった。



④ 投票する

参加者たちは議論を終えた後、それぞれの設問ごとに与えられた選択肢を選んで投票し、自分の意見を表明する。

2. 日本大会（世界市民会議「気候変動とエネルギー」）の開催結果

(1) 開催概要

主催	国立研究開発法人 科学技術振興機構 (科学コミュニケーションセンター 日本科学未来館 社会技術研究開発センター)
協力	国連広報センター
総合監修	小林傳司氏 (大阪大学コミュニケーションデザインセンター)
アドバイザー	(50音順) 江守正多氏 (国立環境研究所 地球環境研究センター) 沖 大幹氏 (東京大学 生産技術研究所) 松橋隆治氏 (東京大学大学院)
日時	平成27年6月6日(土) 午前10時～午後6時30分
会場	科学技術振興機構 東京本部 別館1階ホール 〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町
参加者	関東地方に住む居住する「気候変動」や「エネルギー」に関する専門家ではない市民の性別や年齢、職業などの属性分布もとに100人を、市民モニターを有する調査会社を通じて集めた。

<当日の出席者の属性> (※体調不良により途中で男性1名退場)

年齢	男性	女性
18-29	10	8
30-39	8	7
40-49	12	11
50-59	10	11
60-69	12	11
計	52	48

職業	人数
第1次産業	3
第2次産業	19
第3次産業	41
家事	17
通学	6
その他(無職・リタイア)	16

居住地域	人口密度(人/km ²)	人数
Countryside	<500	21
Suburbs1	500-1300	23
Suburbs2	1300-4000	24
Town	>4000	32

最終学歴	人数
大卒以上	43
それ以外	57

(2) 開催当日スケジュール

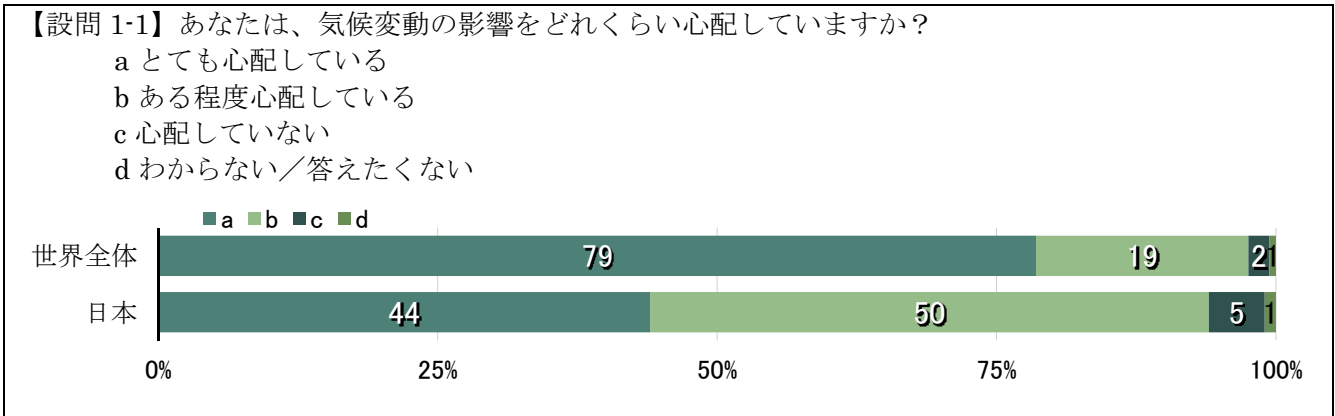
開始時刻	時間	内容
9:00	60分	参加者受付
10:00	30分	開会挨拶・進行説明※1(事務局)
10:30	90分	第1セッション(気候変動へ対処することの重要性)
12:00	75分	第2セッション(気候変動への対処の方法)
13:15	75分	第3セッション(国際交渉と各国の責任)
14:30	75分	第4セッション(取組みの分配と公平性)
15:45	60分	第5セッション(気候変動対策の合意と継続)
16:45	60分	第6セッション(わたしたちの意見)
17:45	15分	集計結果発表、閉会挨拶
18:00	30分	解散(18:30)

(3) 世界全体と日本大会の結果

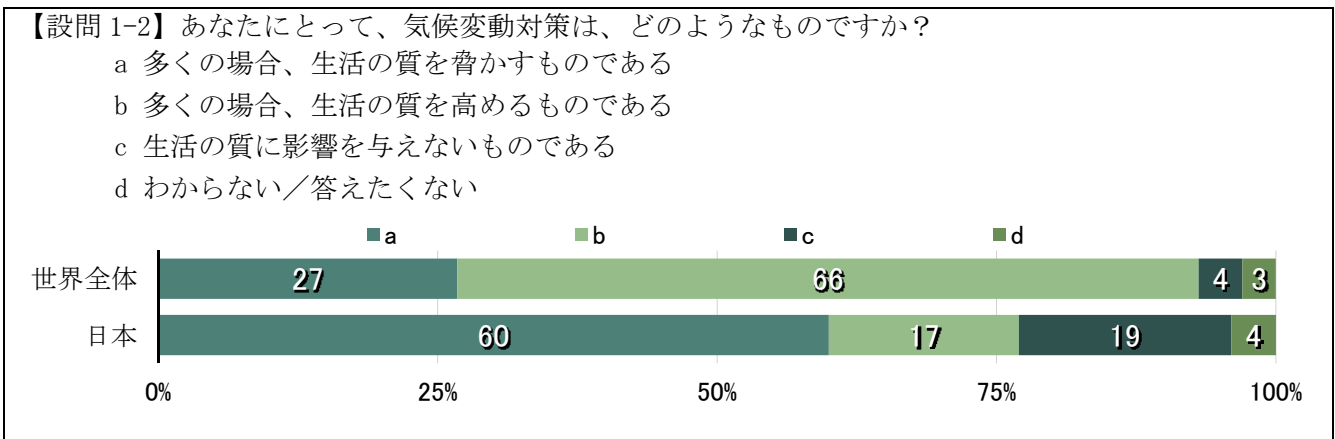
投票結果は、各国大会からデンマーク技術委員会にすぐに提出され、会議の翌日には World Wide Views のホームページ (<http://climateandenergy.wvviews.org/results>) により公表された。主な投票結果について以下示す。(全結果は資料1 参照)

【主な投票結果】

①気候変動の影響について、日本市民は世界市民と比較すると「とても心配している」という割合が顕著に低い。



②世界市民の多くは先進国を含め気候変動対策により「生活の質が高まる」と認識しているが、日本市民の多くは「生活の質が脅かされる」と認識している。

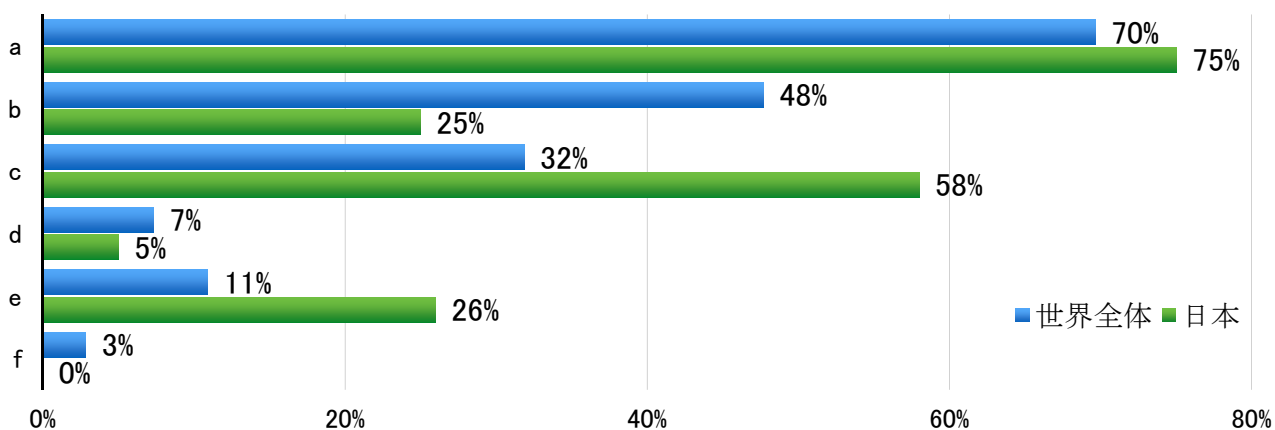


③気候変動に立ち向かうべき主体として、日本市民は特に【国】と【企業】が主導的立場をとって責任を果たすことを期待している。

【設問 1-6】 あなたの意見としては、第一義的に誰が気候変動に立ち向かう責任を持つべきでしょうか。

(2つまで選択可)

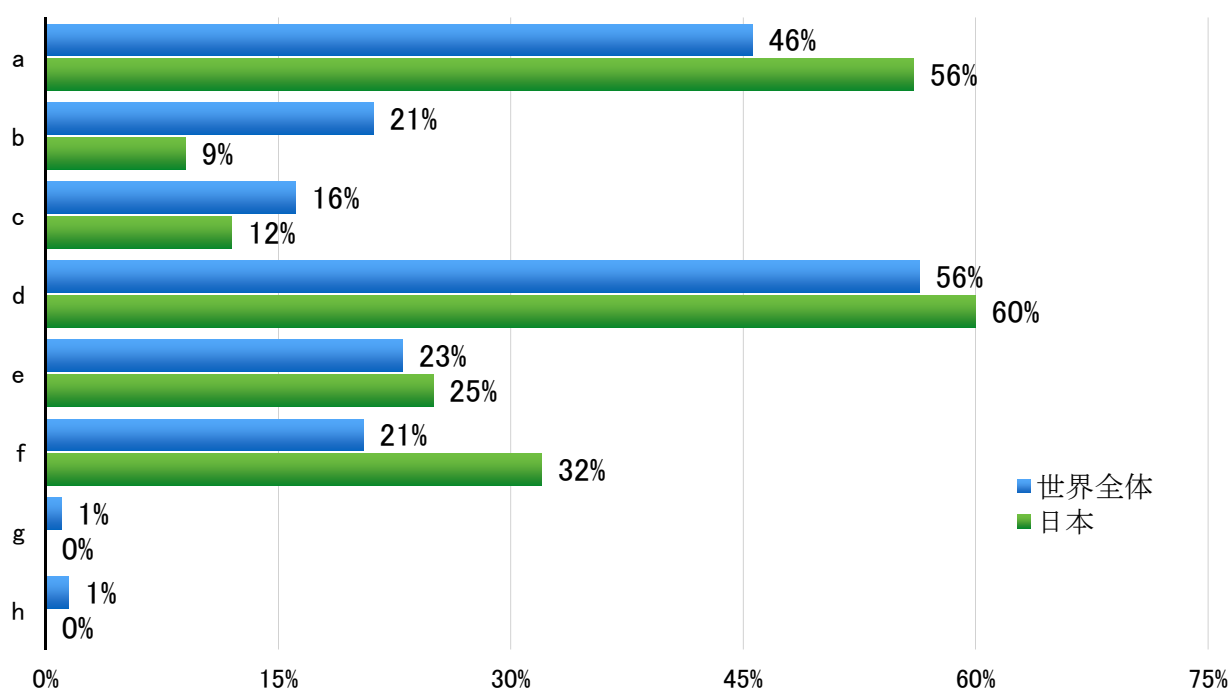
- a 世界全体（気候に関する国際合意や条約を通じて）
- b 市民やNPO/NGO
- c 各国政府
- d 地方自治体
- e 企業や民間部門
- f わからない／答えたくない



④温室効果ガス排出削減のため、世界市民も日本市民も、①研究開発、②自然エネルギーへの補助金、に特に力を入れるべきだと考えている。

【設問 2-2】 温室効果ガスの排出量を大幅に減らすために、どのような手法を用いるべきですか？（2つまで選択可）

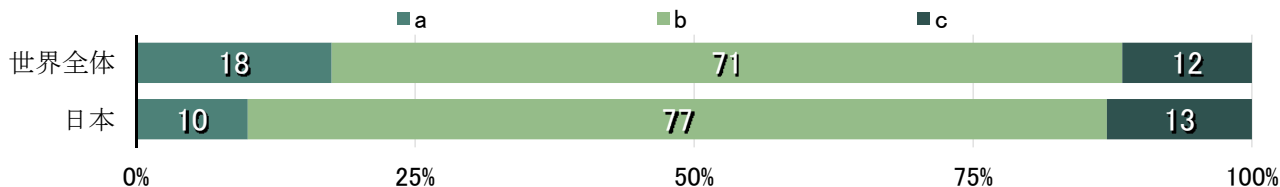
- a 効率的な自動車用電池など、低炭素技術への研究開発を支援
- b 炭素税や排出権取引制度など、炭素への価格付け
- c 化石燃料への補助金の削減
- d 風力や太陽光、海洋、地熱などの低炭素エネルギー利用への補助金
- e 車や建物、電気器具のエネルギー効率向上のための基準など、様々な分野での新基準の法制化
- f 公共交通システムへの投資、地元食材の消費といった、新しい社会経済制度や慣行
- g 大幅な削減はするべきではない。
- h わからない／答えたくない



⑤世界市民も日本市民も、これまでの国連交渉の成果は不十分であると感じており（設問 1-4）気候変動への対処には世界全体でのとりくみが最も有効な手段であるとしている（設問 2-3）。

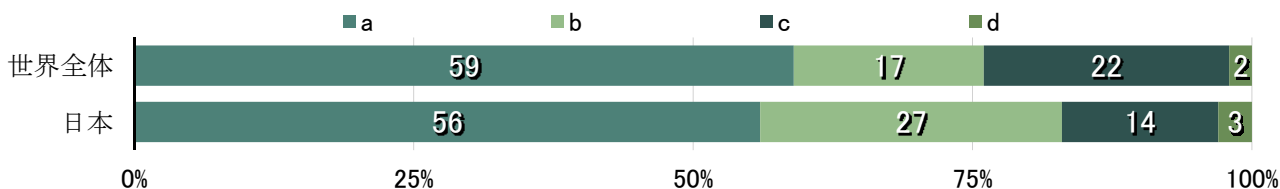
【設問 1-4】あなたの意見としては、国連における 1992 年以降の交渉は、気候変動への対策という面で十分な成果をあげてきたと思いますか？

- a そう思う
- b そう思わない
- c わからない／答えたくない



【設問 2-3】気候変動に対処するために、何が最も効果的な手段だと思いますか？

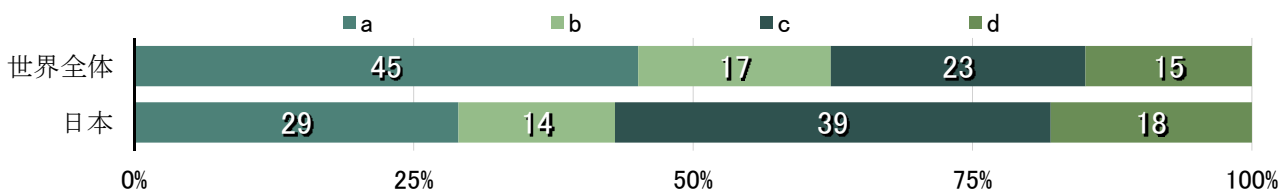
- a 世界全体で実施される解決策
- b 国レベルで実施される解決策
- c 地方レベルで実施される解決策
- d わからない／答えたくない



⑥日本市民は世界市民に比べて、新たな化石燃料埋蔵量の探査について、「世界は探査を続けるべき」だとの意見が多い

【設問 2-5】新たな化石燃料埋蔵量の探査に、世界はどう対処すべきと思いますか？

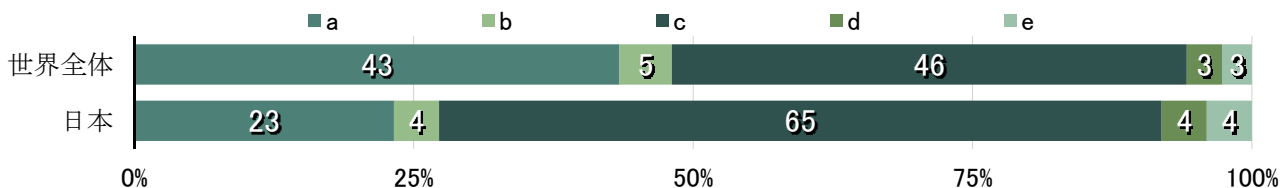
- a あらゆる化石燃料埋蔵量の探査を中止すべき
- b 石炭の探査のみ中止すべき
- c 世界は探査を続けるべき
- d わからない／答えたくない



⑦世界市民に比べ、日本市民の多くは気候変動が優先課題になっていないと感じており、優先課題にすべきだとの意見が多い。

【設問 3-3】 気候変動に対してあなたの国はどのように対応していると感じていますか？

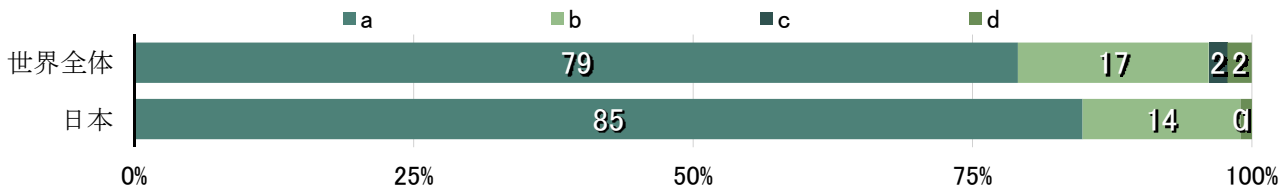
- a 気候変動は国の優先課題になっており、それでよい
- b 気候変動は国の優先課題になっているが、優先課題にすべきではない
- c 気候変動は国の優先課題になっていないが、優先課題にすべきである
- d 気候変動は国の優先課題になっておらず、それでよい
- e わからない／答えたくない



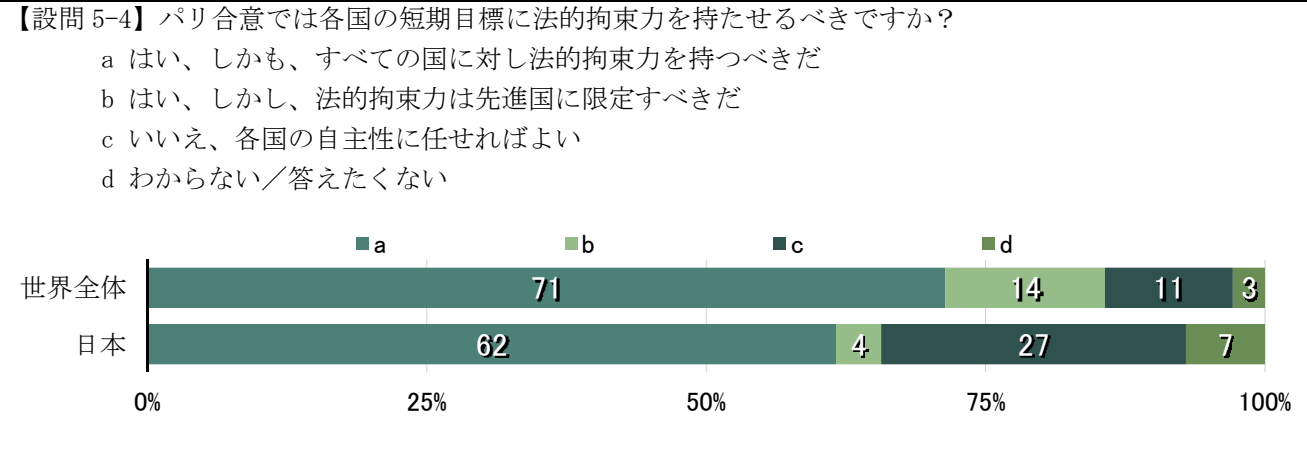
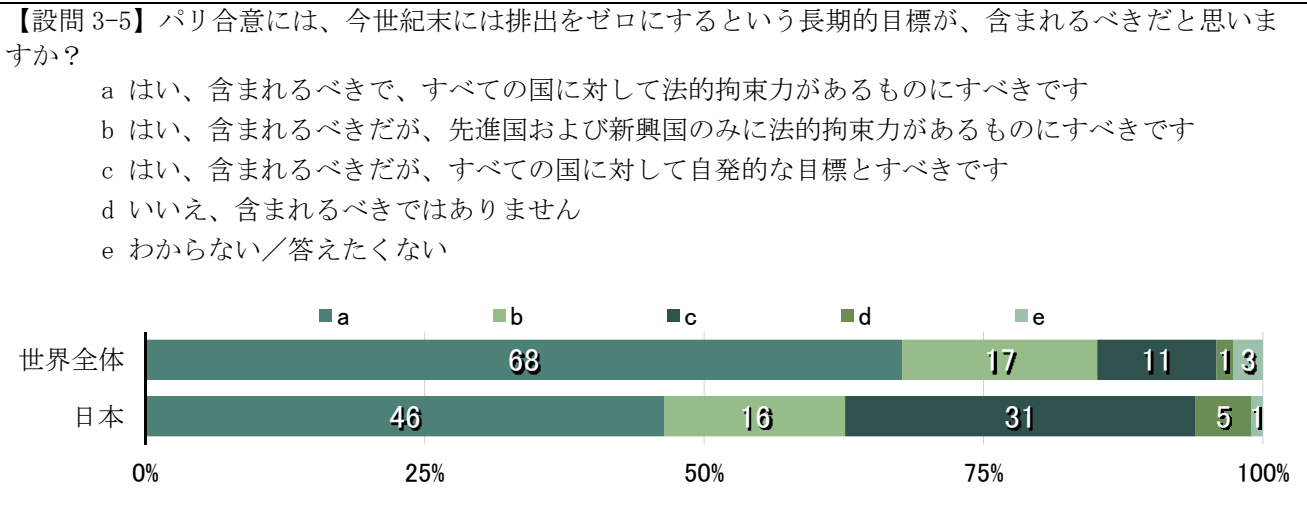
⑧世界市民も日本市民も、温室効果ガス排出削減対策について、たとえ他国が実施してなくても自国は実施すべきであると回答。

【設問 3-4】 あなたの国は温室効果ガスの排出を削減する対策を実施すべきですか？

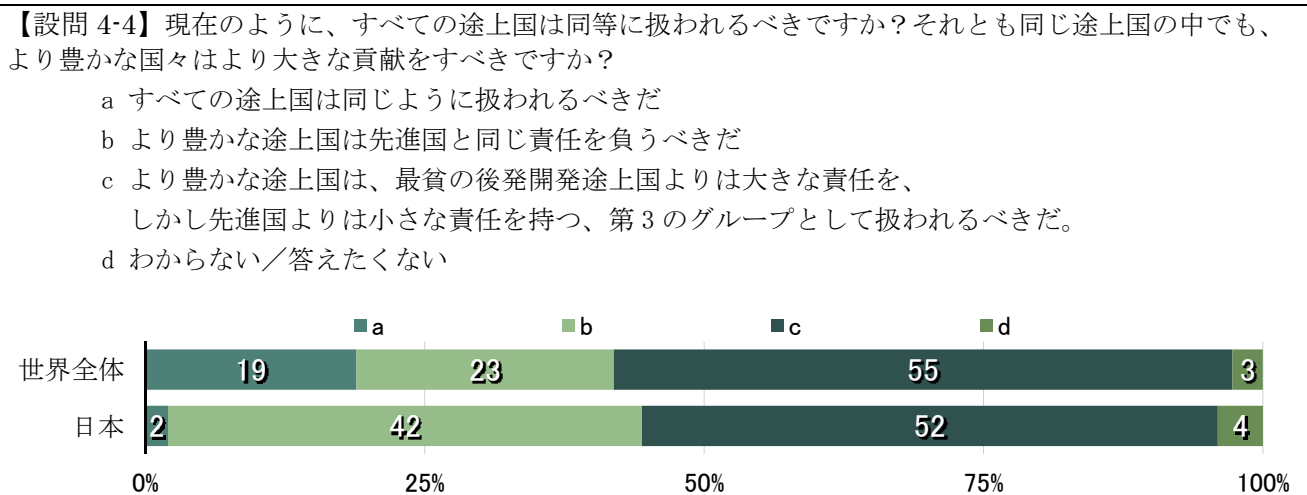
- a はい、たとえ他の多くの国が実施していなくてもやるべきです
- b はい、ただし他の多くの国が実施するのであればやるべきです
- c いいえ、この件に関わるべきではありません
- d わからない／答えたくない



⑨世界市民および日本市民の多くは、今世紀末に温室効果ガスの排出をゼロにするという長期目標（設問 3-5）についても、2030 年までの短期目標（設問 5-4）についても、法的拘束力のある形でパリ合意に含まれるべきだと考えている。しかし、日本市民は世界市民に比べて、「すべての国に対して法的拘束力があるものにすべき」とする割合は低く、自主的な目標とすべきであるとする割合が高い。



⑩世界市民および日本市民のほとんどが、すべての途上国（非付属書 1 国）を同等に扱うのではなく、より豊かな国は最貧国より大きな責任を持つべきであると回答。特に、日本市民は、「より豊かな途上国は先進国と同じ責任を負うべきだ」という意見が多い。



(4) 日本の独自セッション「私たちの意見」

日本では、独自に第 6 セッション「私たちの意見」を設け、第 1～第 5 の世界共通のテーマにおけるセッションの投票における選択肢に収まりきらなかった意見を、参加者同士が自由に議論したうえで、日本の政策決定者に向けたメッセージとして、参加者個人が考える「気候変動とエネルギーについて最も大事なこと」と「そう考える理由」について、自由記述形式で書く機会とした。

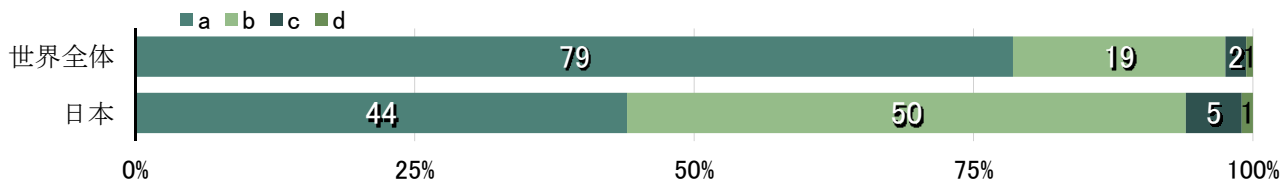
【主な内容】(全ての結果は資料 2 参照)

- ・一人ひとりが知識と危機感を持つことが重要だと思う
- ・メディアやイベントなどで積極的に情報を発信して共有することが重要だと思う
- ・未来を担う子どもたちへの教育が重要だと思う
- ・一人ひとりが個人でできることを取り組むことが重要だと思う
- ・エネルギーを大量に消費する生活スタイルを見直すことが重要だと思う
- ・経済成長を優先して欲望を満たす価値観を転換することが重要だと思う
- ・世界全体が進むべき方向性について合意して連携して取り組むことが重要だと思う
- ・国レベルの政策推進が重要だと思う
- ・企業の取組が重要だと思う
- ・先進国の技術を途上国へ供与して、途上国に実装することが重要だと思う

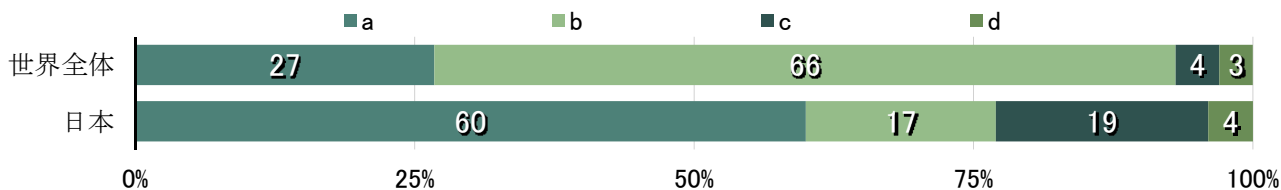
資料1 会議結果（世界全体と日本の結果の比較）

第1セッション 気候変動対策の重要性

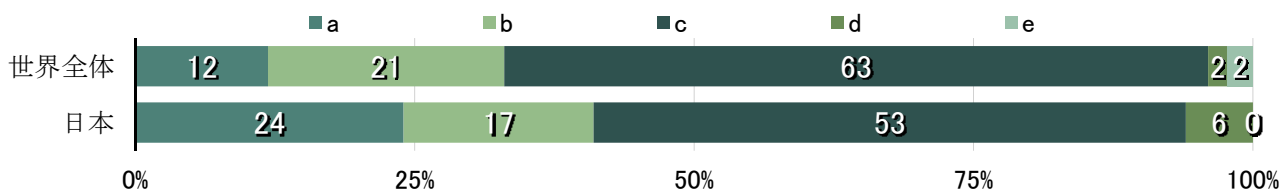
1. あなたは、気候変動の影響をどれくらい心配していますか？
- a とても心配している
 - b ある程度心配している
 - c 心配していない
 - d わからない／答えたくない



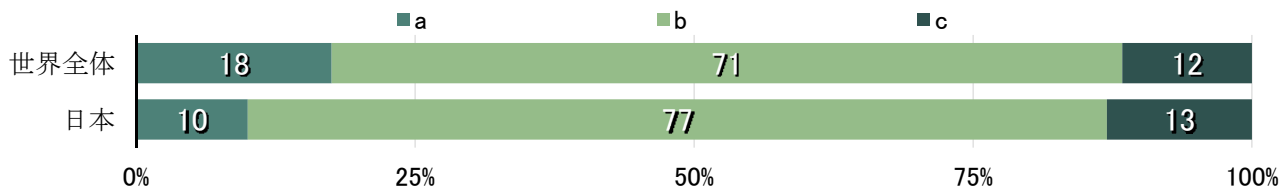
2. あなたにとって、気候変動対策は、どのようなものですか？
- a 多くの場合、生活の質を脅かすものである
 - b 多くの場合、生活の質を高めるものである
 - c 生活の質に影響を与えないものである
 - d わからない／答えたくない



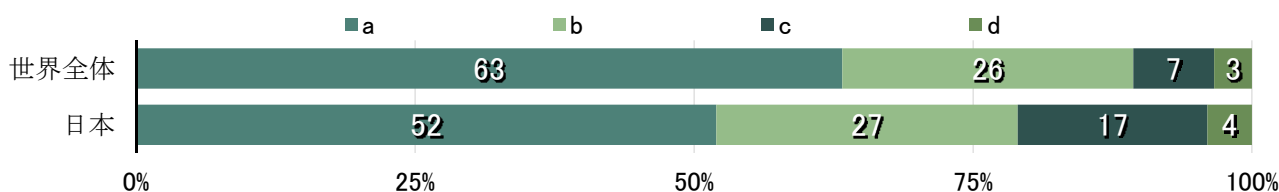
3. 今後数十年間、世界全体の取り組みとしては、どこに重点を置いていくべきと考えますか？
- a 主に適応策に重点を置くべきだ
 - b 主に緩和策に重点を置くべきだ
 - c 適応策と緩和策の両方に等しく重点を置くべきだ
 - d 重点を置くべきものは、適応策や緩和策のどちらでもない
 - e わからない／答えたくない



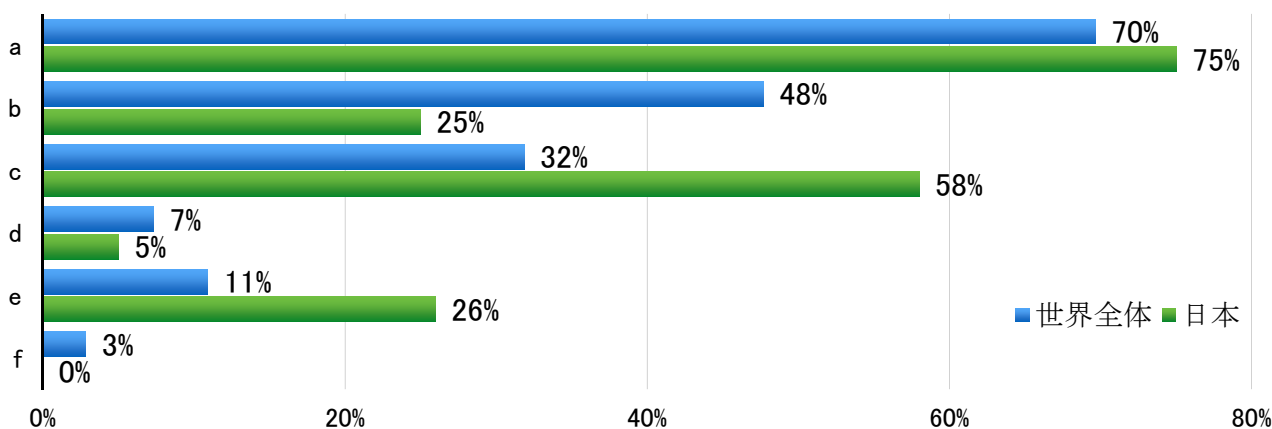
4. あなたの意見としては、国連における 1992 年以降の交渉は、気候変動への対策という面で十分な成果をあげてきたと思いますか？
- a そう思う
 - b そう思わない
 - c わからない／答えたくない



5. 気候変動に立ち向かうために、世界はどのくらい早急に対応すべきですか？
- a 世界は、温暖化を 2℃以下に抑えるために必要な行動計画を、それがどんなことであっても、パリにおいて決定すべきだ
 - b 世界は、野心的な行動を決定すべきだが、どんなことでもというほどではない。
 - c 世界は、現在の枠組みを大幅に変えないような目標を設定すべきだ
 - d わからない／答えたくない



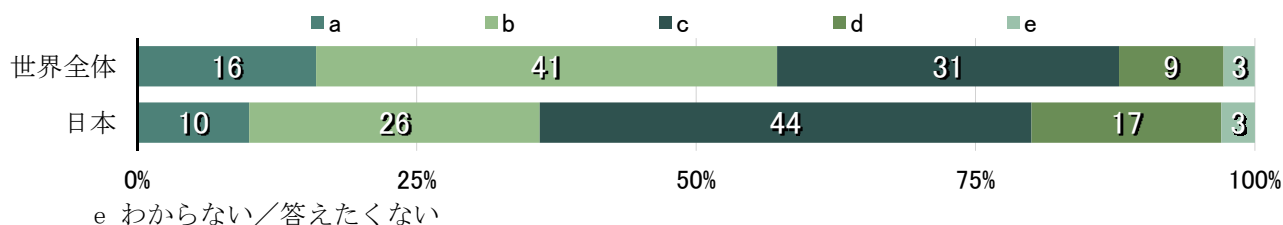
6. あなたの意見としては、第一義的に誰が気候変動に立ち向かう責任を持つべきでしょうか。(2 つまで選択可)
- a 世界全体 (気候に関する国際合意や条約を通じて)
 - b 市民や NPO/NGO
 - c 各国政府
 - d 地方自治体
 - e 企業や民間部門
 - f わからない／答えたくない



第2セッション 気候変動対策の手段

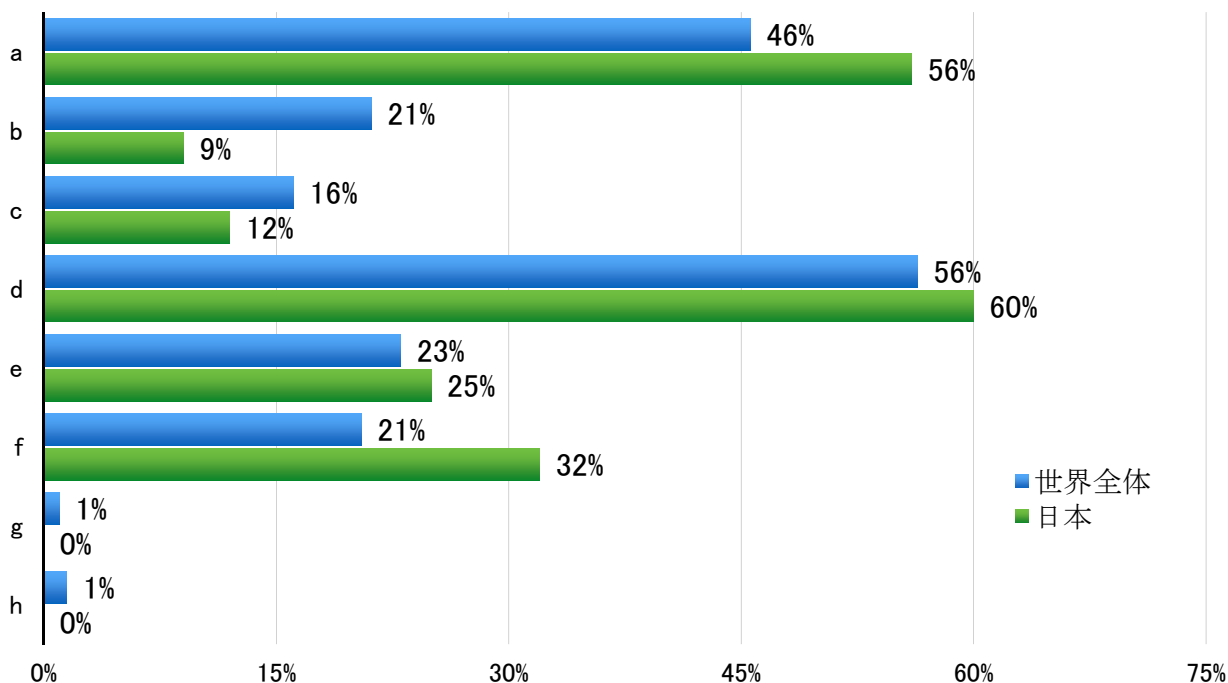
1. 炭素税には賛成ですか？

- a はい、すべての国に導入すべきです
- b はい、すべての国に導入すべきですが、排出削減が進まない国ほど税率を高く設定すべきです
- c はい、すべての国に導入すべきですが、その国の開発レベルに応じた税率とすべきです
- d いいえ、炭素税には反対です
- e わからない／答えたくない



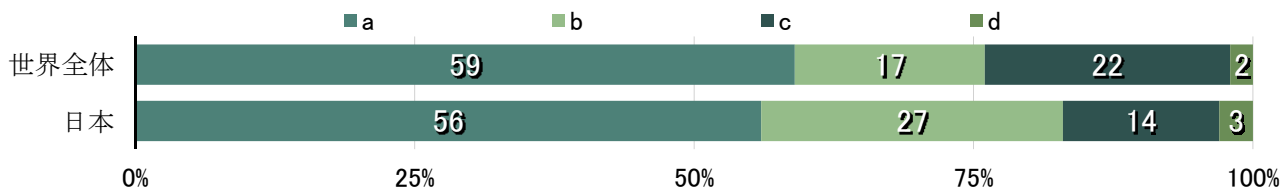
2. 温室効果ガスの排出量を大幅に減らすために、どのような手法を用いるべきですか？（2つまで選択可）

- a 効率的な自動車用電池など、低炭素技術への研究開発を支援
- b 炭素税や排出権取引制度など、炭素への価格付け
- c 化石燃料への補助金の削減
- d 風力や太陽光、海洋、地熱などの低炭素エネルギー利用への補助金
- e 車や建物、電気器具のエネルギー効率向上のための基準など、様々な分野での新基準の法制化
- f 公共交通システムへの投資、地元食材の消費といった、新しい社会経済制度や慣行
- g 大幅な削減はするべきではない。
- h わからない／答えたくない



3. 気候変動に対処するために、何が最も効果的な手段だと思いますか？

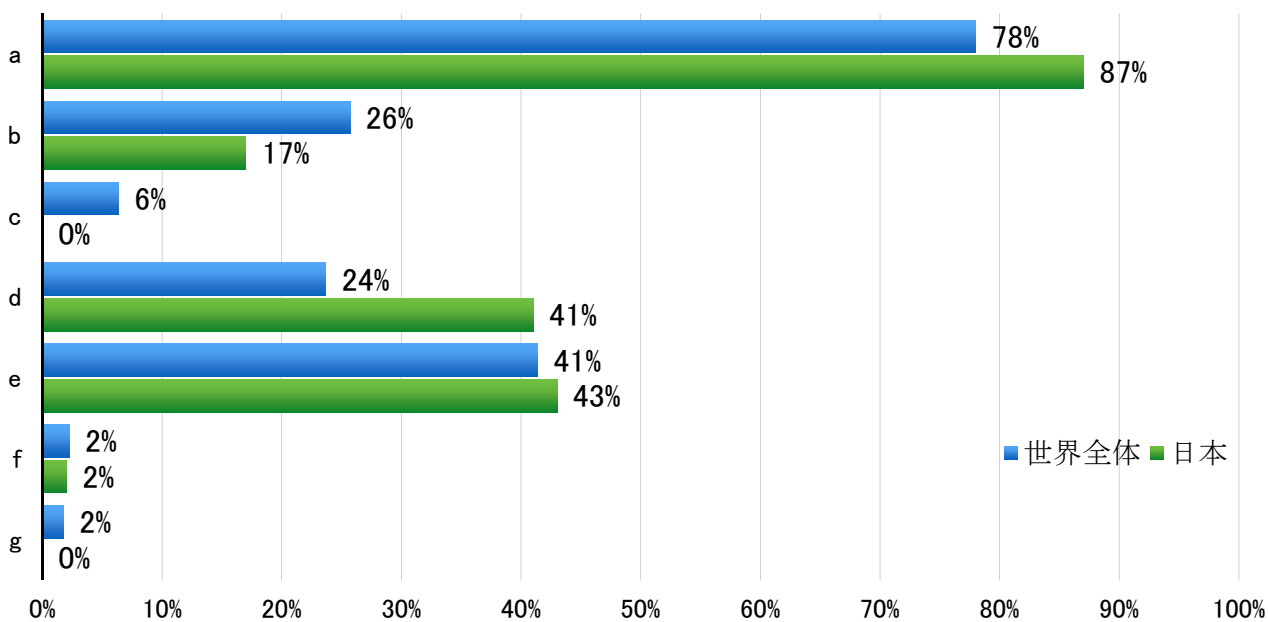
- a 世界全体で実施される解決策
- b 国レベルで実施される解決策
- c 地方レベルで実施される解決策
- d わからない／答えたくない



4. 温室効果ガスの排出削減につながる仕組みとして、どのようなものが有用だと考えますか？

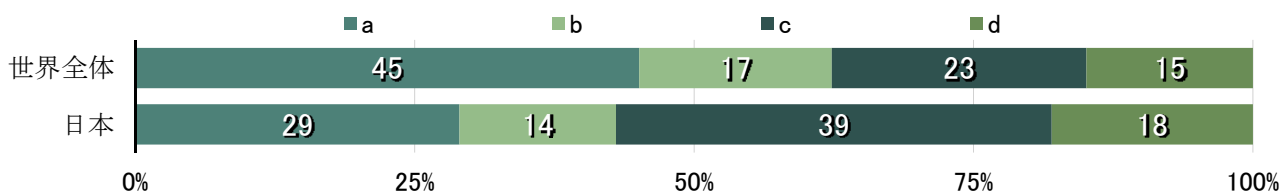
(2つまで選択可)

- a 広く一般向けの気候変動に関する教育プログラム
- b 伝統的な土着の知恵に基づく解決策
- c 男女平等を推進する取り組み
- d その他の国連の取り組み、条約、プログラム
- e 熱帯林の保護
- f 上記のいずれも有用ではない
- g わからない／答えたくない



5. 新たな化石燃料埋蔵量の探査に、世界はどう対処すべきだと思いますか？

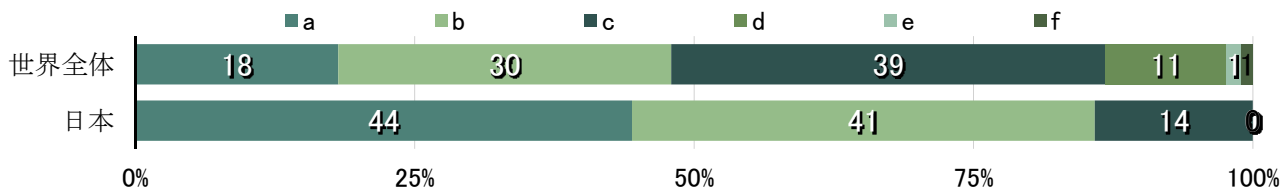
- a あらゆる化石燃料埋蔵量の探査を中止すべき
- b 石炭の探査のみ中止すべき
- c 世界は探査を続けるべき
- d わからない／答えたくない



第3セッション 国連交渉と各国の貢献

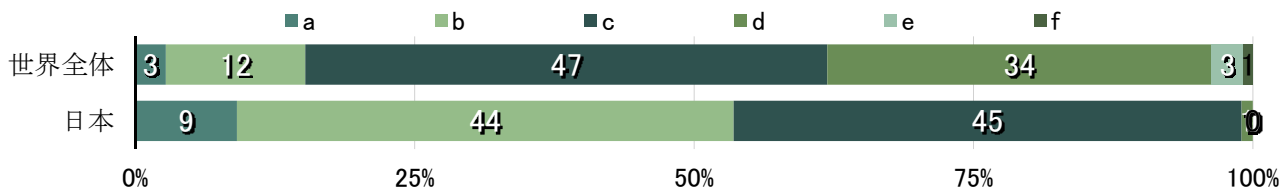
1. 世界市民会議に参加する前は、気候に関する国際協定を作るプロセスについて、どれほど知っていましたか？

- a ほとんど何も知らなかった
- b ごくわずかだけ知っていた
- c ある程度知っていた
- d 詳しく知っていた
- e 専門家と同程度に知っていた
- f わからない／答えたくない



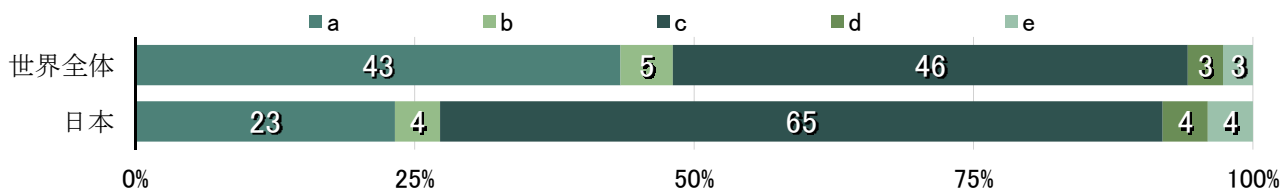
2. 今はどの程度自分は知っていると思いますか？

- a ほとんど何も知らない
- b ごくわずかだけ知っている
- c ある程度知っている
- d 詳しく知っている
- e 専門家と同程度に知っている
- f わからない／答えたくない



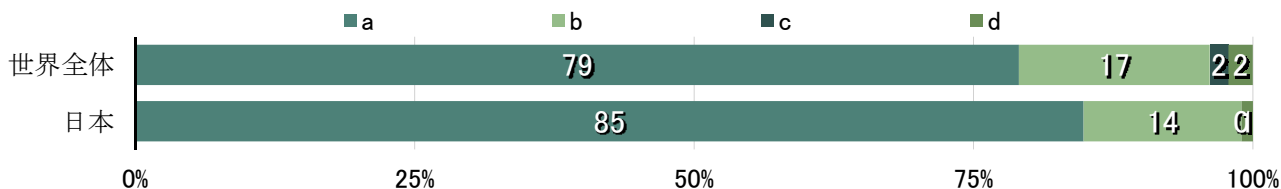
3. 気候変動に対してあなたの国はどのように対応していると感じていますか？

- a 気候変動は国の優先課題になっており、それでよい
- b 気候変動は国の優先課題になっているが、優先課題にすべきではない
- c 気候変動は国の優先課題になっていないが、優先課題にすべきである
- d 気候変動は国の優先課題になっておらず、それでよい
- e わからない／答えたくない



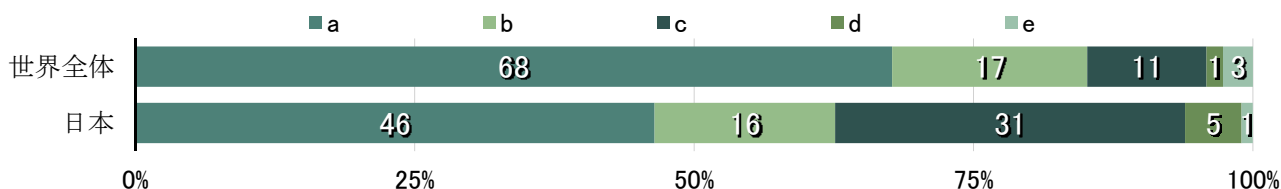
4. あなたの国は温室効果ガスの排出を削減する対策を実施すべきですか？

- a はい、たとえ他の多くの国が実施していなくてもやるべきです
- b はい、ただし他の多くの国が実施するのであればやるべきです
- c いいえ、この件に関わるべきではありません
- d わからない／答えたくない



5. パリ合意には、今世紀末には排出をゼロにするという長期的目標が、含まれるべきだと思いますか？

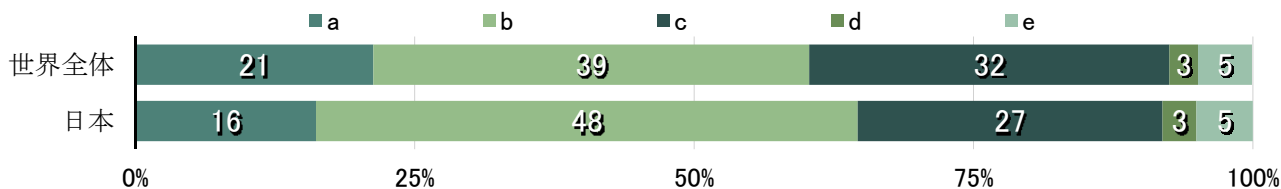
- a はい、含まれるべきで、すべての国に対して法的拘束力があるものにすべきです
- b はい、含まれるべきだが、先進国および新興国のみに法的拘束力があるものにすべきです
- c はい、含まれるべきだが、すべての国に対して自発的な目標とすべきです
- d いいえ、含まれるべきではありません
- e わからない／答えたくない



第4セッション 負担の分配と公平性

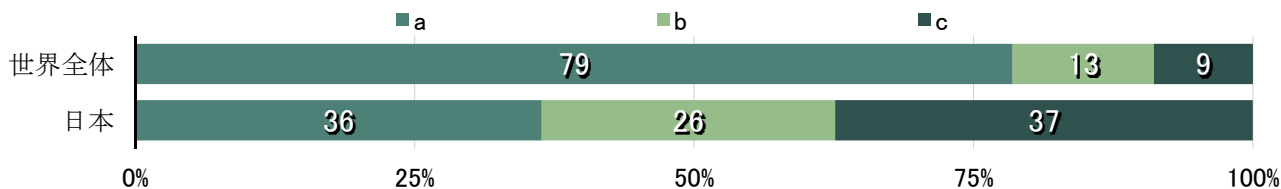
1. 気候変動防止への各国の貢献目標は、何を基準にして設定するのが最適でしょうか？

- a 過去の排出量
- b 現在または将来想定される排出量
- c 現在または将来想定される経済力
- d 各国は目標を設定する必要はない
- e わからない／答えたくない



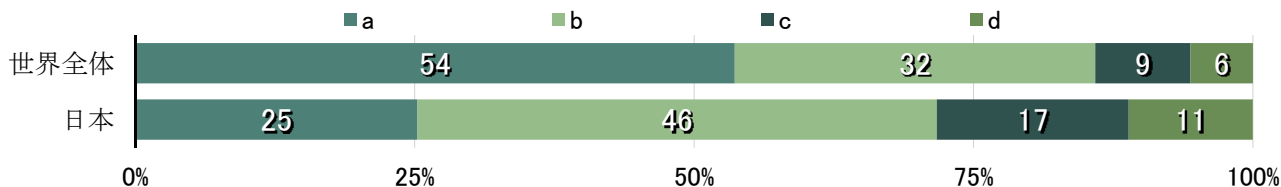
2. 低所得国における緩和策と適応策のために、富裕国は2020年に1000億ドルを拠出することが合意されているが、2020年以降はさらに増額して支払うべきですか？

- a はい
- b いいえ
- c わからない／答えたくない



3. 民間部門の資金を、先進国が提供する気候変動対策基金への貢献と見なすべきですか？

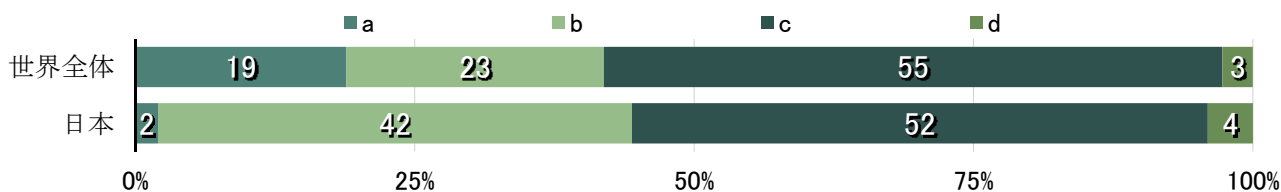
- a はい、およそ半額あるいはそれ以上
- b はい、ただしごく一部でよい
- c いいえ
- d わからない／答えたくない



4. 現在のように、すべての途上国は同等に扱われるべきですか？

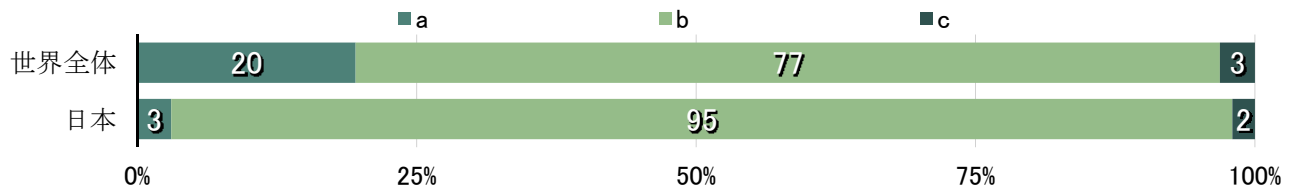
それとも同じ途上国の中でも、より豊かな国々はより大きな貢献をすべきですか？

- a すべての途上国は同じように扱われるべきだ
- b より豊かな途上国は先進国と同じ責任を負うべきだ
- c より豊かな途上国は、最貧の後発開発途上国よりは大きな責任を、しかし先進国よりは小さな責任を持つ、第3のグループとして扱われるべきだ。
- d わからない／答えたくない



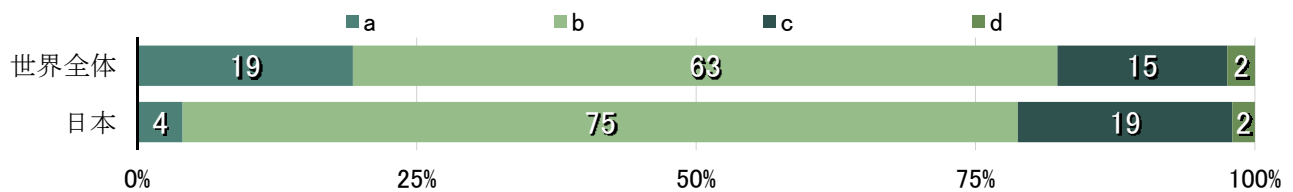
5. 富裕国だけが緑の気候基金に貢献すべきですか？

- a はい
- b いいえ、より豊かな途上国も貢献すべきだ
- c わからない／答えたくない



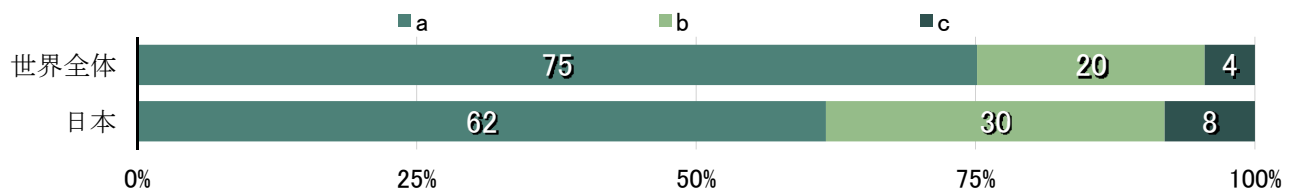
6. 途上国における取り組みは、先進国からの援助資金に依存するべきでしょうか？

- a はい、完全に
- b はい、部分的には
- c いいえ
- d わからない・答えたくない



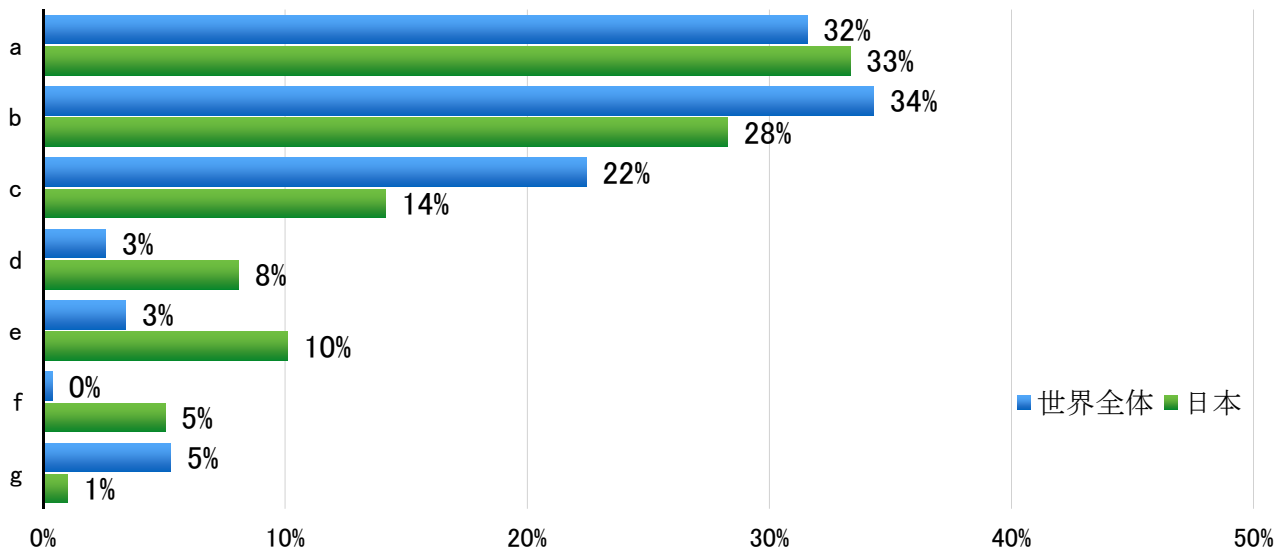
7. 都市を含む地方自治体も、緑の気候基金の資金を利用できるべきだと思いますか？

- a はい
- b いいえ、各国政府のみ
- c わからない／答えたくない



8. 気候変動の影響による損失と被害に対して、パリ合意に、どのようなことを盛り込むべきですか？

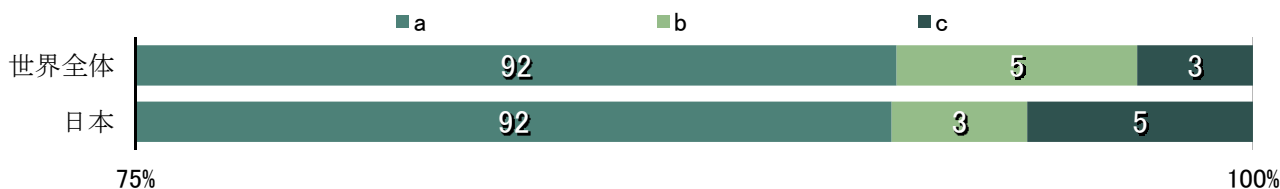
- a 被害を補償するための国際的な基金を設立すべき
- b 被害を軽減するための、各国における対策実施を支援すべき
- c 被害の訴えに対処するための国際気候裁判所のような新しい組織を設立すべき
- d 各国は民間保険に加入すべき
- e 被害補償のための民間保険を設け、保険に加入するかどうかは、本人（個人や企業、公的組織）の判断に委ねられるべき
- f 現状を変更するべきではない
- g わからない／答えたくない



第5セッション 気候変動対策の約束合意と維持

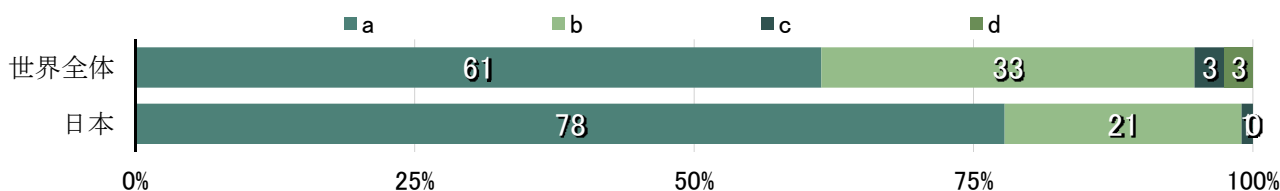
1. 気候変動行動計画に基づく約束を5年ごとに更新することに、各国はパリで合意すべきだと思いますか？

- a はい
- b いいえ
- c わからない／答えたくない



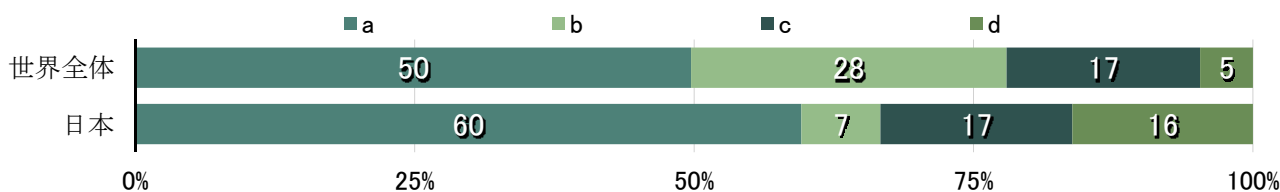
2. 国連レベルの機関が、各国の気候変動への取り組みが十分かつ公正に行われているかどうかを評価する権限を持つべきだと思いますか？

- a はい、国別に評価されるべき
- b はい、ただし、全世界での取り組み状況を把握できるレベルでよい
- c いいえ
- d わからない／答えたくない



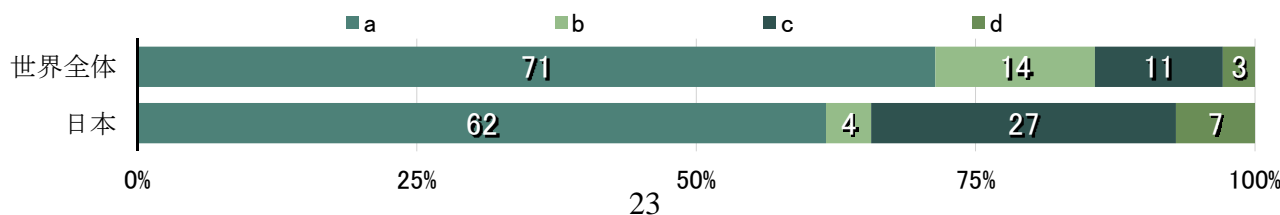
3. 各国がお互いに緩和策と適応策の取り組みに関する報告を、監査し合う権限を持つべきですか？

- a 全ての国が他国の監査権を持つべきだ
- b 持つべきだが、援助国による被援助国の監査のみ認めるべきだ
- c 持つべきではない。どの国も監査は任意とすべきだ
- d わからない／答えたくない



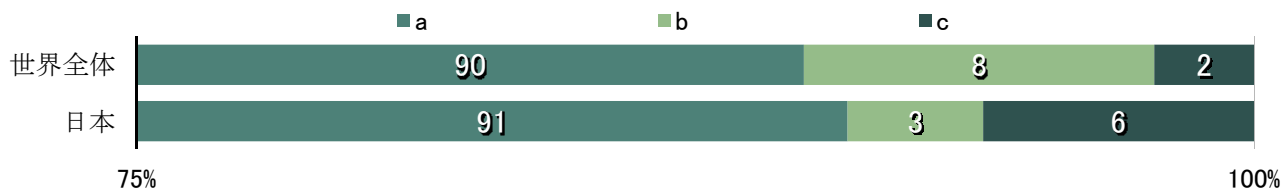
4. パリ合意では各国の短期目標に法的拘束力を持たせるべきですか？

- a はい、しかも、すべての国に対し法的拘束力を持つべきだ
- b はい、しかし、法的拘束力は先進国に限定すべきだ
- c いいえ、各国の自主性に任せればよい
- d わからない／答えたくない



5. 各国は自国の排出量および気候変動行動計画の約束履行にむけた進捗を、毎年報告すべきですか？

- a はい、すべての国が自国の排出量と取り組みの進捗を報告すべきだ
- b 先進国のみ、毎年報告書を公表する義務を負うべきだ
- c わからない／答えたくない



資料2 第6セッション「私たちの意見」

「私が考える気候変動とエネルギーについて最も大事なことは」

●自国で消費する物は、なるべく自国で生産をする様な政策をたてる事

(理由) これは、かならずしも内向になるという事ではなくエネルギーの節約だけでなく、弱い国の人々の食料や資源を守る事にもなると思う。資源の貧しい日本ではどうしても輸入にたよらねばならぬ物もあるが、コスト優先で見すてられている資源も多くあり、それを有効に利用する事が必要であると思う。その為、コストの負担は、皆が負うべきと考える。

●日々身近な所で自分のできる事を小さい事でも積み重ねていく姿勢。小さい頃からの啓蒙教育(環境)は今後必須。

(理由) 一人一人の小さな積み重ねが大きな力になる。

●移動は極力、歩くか自転車。

(理由) 必要の無いエネルギー消費行動をしない。

●教育・啓蒙(市民レベルからの)

(理由) ・このようなことを考える。やらなければならないことをわかりやすく教え・伝える。当事者意識が無いと変わっていかない・環境について、技術者を育てていく・もっと色々な意見をすい上げていく

●個人の理解が足りていないので、勉強する場やどうするべきなのかアピールするべき

(理由) 漠然とした知識しかない、どうすればよいかわからない、一人の努力ではどうもクリアできないから。市町村のペットボトルの分別回収のようにある程度のルールを負担をつけたほうがよい(できれば一般家庭に金銭的負担が少ないものがよい)

●自己満足を楽しむ

(理由) わかりやすい言葉と簡潔なポイントで問題を考える教育を行いたい。自分の出来ることをやる意義を持ち頑張った喜びを知る。

●世界人口のよくせい

(理由) CO2 増加の原因は人間

●個人の意識(地球を守るという意識)

(理由) 地球に住む1人1人が地球を守るために意識を持って行動することが結果的に大きな力となると考えるから

●正しくきき感を理解して、地球にやさしく、次世代に渡しましょう

(理由) 便利な生活は、後でしっぺ返しが待ち受けています

●知ること

(理由) 気候変動により、これから世界がどうなっていくのかを知ることが大切だと感じました。教育機関で知識を植えつけ、危き感を持つことが重要で、子供や学生に知ってもらうことで、新たな考えが生まれたり、代替エネルギーの発見につながるのではないかと思います。

●「欲望のコントロールをする」

(理由) ○欲のぶつかり合いで最良の答えを求めようとすると答えが見つからない。ある程度の妥協と我慢をしないと前に進めない問題である。○個人のレベルにおいても、これまでの気候変動が人間の業である事を自覚し、不本意や不都合なことであっても受け入れる努力を多くの人数でやれば、ゆくゆくは大きい力になって改善する可能性がある。

●「本当にその経済活動が必要であるかを、国民の皆が意識すること。」です。

(理由) エネルギー消費と経済活動は、ほぼ等価であり、経済活動を抑制すれば連動してエネルギー消費も抑えられると考えます。「経済の成長が第一」という時代を卒業する時が来たと思います。

●自分自身(各人)が常に意識したエネルギーと向きあうことが大事と思いました。

(理由) ・(以前はメディアを通して)化石燃料のことや温だん化等を報道することで社会全体でも「チームマイナス5%」「チャレンジ25」なども盛り上がり片すみには大概の方々が意識してエコ活動もしていたはず・・・・現在はメディアでも取り上げられないことで忘れがちも、結局は悪い方向に進んでおり、各

人の意識から、その積み上げで社会に貢献しないことにはいけないと思いました。そして、一人一人の積み重ねで身近なことから温だん化防止や抑制へと進めていかないといけないと思いました。

●個々の認識と世界のエネルギー状況の把握

(理由) 今日参加した事で意見を言う事が大切な事だと分かりました。他国の状況を言う前に、まず無理せず身の回りで出来る事を行う事。知り得た事は人に伝え共有する事等も必要だと思います。

●全ての国が継続して2℃目標に対して行動を起こすこと。

(理由) ①短期間ですぐに結果が出ることではないため、長い目で見て、あきずに取り組まなければならないと思う。②環境のためとはいえ、メリットを感じなければ行動を起こしたいと思える国は少ないと思う。また結果として目標を達成できなくても2℃目標には少なからず貢献できるため、法的拘束力ではなく各国にメリットを感じさせる必要があると感じた。

●国民1人1人の意識

(理由) 無理なく、生活レベルを下げるのではなく無駄なエネルギー(電気やガソリン)を使わない事を心がけて生きていく事が大事だと思うからです。

●個人個人ひとりひとりが地球温暖化について考え実行する事。その為には幼い時からエネルギーについて教育をしていく。悪くいえば洗脳。クリーンな空気をいじっていく為にもこの教育洗脳は必要ではないか

(理由) 私たちは便利な生活かいてきな生活を手にする事で地球温暖化という負の遺産を後生にのこしていくとおもう。それは温暖化というぎせいの上に手にいれているとおもう。これ以上の温暖化を防ぐためにもひとりひとりが毎日の省エネという小さな積み重ねをする事で少しでも防げるのではないか。個人個人のなりたちが、地方自治体へそして国へそして世界へとつながっていくとおもうから。そのひとつに発展途上国の人々の教育も必要になってくるとおもう日本は技術力にたけた中小企業がたくさんあります。それも活用のいっかんではないでしょうか。

●個人個人がエネルギーに対する省エネ意識を持つ事(子供の頃からの教育も大切)

(理由) 海拔5mの所に住んでいると、いつか海面が上昇して海中に沈んでしまうのではと思う事があります。個人が集まって国となり世界となるので人々の意識が大切。

●無駄のない自然な生活を心がけること

(理由) 日の出とともに起き、日が沈んだら寝る。夏は行水をする。国によっても人によっても違うが、どれも今できることをする。無理して病気になると余計なエネルギーを使うので気を付けて。

●まず個人が興味を持つ事。そして国レベルの話はその後だと思う。もっと人々に伝達して周知してほしい。

(理由) 具体的な現状はあくをして興味を持ち継続する事だと思う。

●世界レベルでの合意形成に向けた基準の設定

(理由) 個人が実感できる基準が無いと活動の継続ができない。国レベルから国民レベルへのブレイクダウンが必要

●世界各国の人々が温暖化に対して同じ方向を向くこと。(合意)

(理由) ・人類共通の問題という意識を持つため・対策に反対の人も、実際に深刻な被害を受けている国・人々に向かってそのままでもいいじゃんとは言えないので合意せざるをえない・様々な意見を認め合いつつも同じ方向を示すことが大切

●「周知・教育」と考えます。投票率の低い選挙の意味合いが法的には有効でも疑問視されるように、実質的な(精神的な)参加者が少なければ、地球人として直面しているピンチに立ち向かえないと思います。

「世界標準」を制定し、方向性を共有することは、非常に困難だと思いますが、小さい単位で一定の合意をつくっていく事は、その一歩だと考えます。

(理由)

●まず、私たち自分自身が現在の状況について理解し、そのうえで世界全体の問題として意識して問題解決の糸口を探していくことだと思います。

(理由) 数学上ではCO2の排出量がといっても、どんな基準で出されているものなのかも理解できていないところもあり、解決策は必要ではあるが、もっと状況を知った上で、世界全体が同じテーブルに着き、そこからスタートすることが必要だと思います。

●気候変動における人々の影響を1人1人に知らせるべき。また、現在使用しているエネルギーについて、良い面、悪い面を詳細に報告すべき。

(理由) 地球環境は、生物が生きていくうえで1番大切なことだと思うため、現上、どのような危機的状況になっているのか、政府が国民に知らせることが大切だと思う。

●目先の経済的な利害から少し離れ、地球温暖化の現場を将来に渡る影響まで考えて判断するようにすること

(理由) この問題を先延ばしにする方が最終的な被害や損失が大きくなるため

●排出量削減を、もっと国レベルで進めて行き、個人が出来る事はすべて実行すべきだと思う。

(理由) 排出量がふえる事で気候変動が進み、自分達に、ひがいがふりかかって来ることはさげたい。

●人類1人1人が危機意識を持って行動に移すこと

(理由) 国まかせ、企業まかせで対策を行ってきたからエネルギー消費による気候変動がくい止められなかったと思うから

●人間と、その生産活動による環境への影響について広く教育することです。

(理由) ・沢山の国、地域で子供から大人まで、この問題の原因、状況、予測を共有することが大事。・皆が本気にならないと解決しない。

●更なる技術開発と確立した技術の無償提供

(理由) 先進国のたどって来た道程を、途上国にフィードバックして、負の遺産を増加させない。

●無駄なエネルギーを使わない。多少不便でも電力の消費を減らす。駅のエスカレーターもどちらかという無くてもいい。

(理由) 森林、山、川その他もろもろの資源を守り、人類が地球に住み続けられるようにするため。

●地球で生きている人として、もっと深く考えること。

(理由) ・悪化を少しでも防げるように、1人1人ができることをする。小さなことでも、やらないよりやったほうが良い。・他人事と思わないで、意識をしっかり持つこと。

●我々人類が生きているこの地球を大切に守る為に出来る事を考え行動する事

(理由) 個人レベルでずっと出来る事は続けますが1人の思いがどこかに種を落とし芽生く様であって欲しい。人間はそんなにおろかではないと信じたいので

●・危機を未来に対して教えていくこと・面倒くさい過程を楽しむこと

(理由) 例えば、暑くなったら海で泳ぐ→いい思い出になる海水の浸水が増したら→街も消えるこのような教育プログラムを組み、未来の人類が地球と共存できる教育を作り上げる。つまり、地球のエネルギーと自分のエネルギー消費は反比例するという事。

●ひとりひとりが自分自身の問題としてまず、できることからやっていく(考える)事。

(理由) 100年後に大好きな日本が今の姿でなくなるのは、とても辛いです。もっと、危機感を持って、今の自分に何が出来るのか、何をしたら気温上昇をくい止めることができるかを考え、行動に移さなければという決意が生まれました。と、同時に、企業、国レベルでも努力して欲しいと願います。

●切実感を各々が抱くこと。これが第一で、そのためには人類皆に“身近なテーマ”として理解を得る必要がある。さらには、中期的な目標を数値化し、その具現化にむけては足並みを揃え、時には法的な措置に拠る後押しで各国、各組織の対策が明確になることであろう。

(理由) 次世代にバトンをつなぐには、どこかで目標を平等に割り出すことが大切。それぞれに個性の異なる国々が、自らの特色を発揮して目標に取り組んでゆくことを望む。

●地球上の1人1人がじぶんにかかわる重要事項としてとらえ、考えていかなければならない。

(理由) 先進国や途上国でそれぞれ生活レベルや環境は違うが、地球単位で考えると気候変動対策は全ての国が行わなければならない。世界レベル、国家レベルで対応すべき事はたくさんあるが、1人1人が自分に出来る事を行う事も大切な事である。

●個人、地域、国レベルで考えるのではなく、地球を1つの共同体としてとらえて、知恵や資本を出し合い、目標を達成していく事が大事だと思う。

(理由) それは、個人、地域、国といった区切りを設けている限り、利害や様々な要因により、遅々として問題解決の糸口など見いだす事はできないから。

●パリ会議で温暖化対策の目標(各国)を定め実施することに合意すること。

(理由) 温暖化に対する脅威は人類共通のもの。合意に基づき各国、地方、そして個人が温室効果ガスの削減計画に取り組める。覚悟を持つ。

●世界の人々、各一人一人が地球環境の改善と、未来に向けた気候変動そしてエネルギーに対する強い意識、それとお互い手を組んでいくことが大切と感じました。

(理由) 節電等の小さなエコロジー活動から始まり、やがてその活動と同じに行う人々と連携して大きな力になっていく事。先進国、そして国連は途上国への支援そして見守っていく事が地球の未来へ進む平和への第一歩になると感じました。日本の伝統技術、国民のエコロジー意識が途上国への助け舟になる事を望んでおります。

●低炭素化社会を実現するために

(理由) 低炭素化社会の実現のために、木材の利用の建物を作る。木には、光合成があるため、二酸化炭素を減らすとともに酸素を増やす。また、木造の建物は内部にためた二酸化炭素を長い間ためられる。低炭素社会を実現するためには、一人一人の意識が最重要課題だと思う。

●・これからの子や孫世代がこの日本で安心して暮らせる事・個人個人の小さな取組が必要(ゴミ処理、エコ活動等)・炭素排出量を削減すると同時に酸素を増やす取組をすること

(理由)・地球温暖化を早い時期に止めること(国レベルより世界レベルで)国により習慣、文化が違うので意識改革が必要(国連での決め事は必要)※同じテーブルの方から伺った建築の木造化がとても心に残りました。植林と自国の木材の使用

●クリーンエネルギーによるグローバルな電力ネットワーク作り。この場合のクリーンエネルギーは現状では「原子力」しかない。

(理由) 2100年までに平均気温の上昇を2℃以内に抑えるには、まず原子力によるクリーンエネルギーに頼るしかない。政治的、地質的に安定した地域に原子力発電施設を集中的に造り、国連と各国が共同して管理するもの。欠点は、建設可能な地域がヨーロッパ位であることと、事故の場合の危険が非常に高い。

●個々の意識とクリーンエネルギーをもっと使って、できる事から始める。二酸化炭素を他のクリーンエネルギーに変える技術とかできたら良いなあって思います。

(理由) 個々の意識がないとなかなか減らせないと思います。生ゴミも生ゴミを肥料に変えるやつがもっと浸透していけばいいのにとします。原発に頼らなくても風力発電や太陽光など自然エネルギーでできるならその方が良いので、どんどん広めてほしいです。

●温暖化を防ぐにはどうすればいいのか、という「意識←教育」を持つこと→身近なことから取り組む 節電・節水 etc

(理由) 個人の意識が高まらない限りは、たとえ大きな枠組みを作ったとしても、効果がないと思うから。草の根運動レベルから地域レベル、国レベルへと広がっていくことで、気候変動への対策へつなげていくべき。

●個人、企業、技術者、研究者、国家、それぞれがそれぞれのやれる事をする事

(理由) 問題が大きすぎ、又、深刻であり、何をどうして良いのか?個人のレベルでも国家のレベルでもうまく行かない。で、やらないわけにはいかない、だから、それぞれが、それぞれのやれることをする。それしか無いように思う。

●科学技術によるCO2削減

(理由) 日本の省エネや環境技術は、今現在世界トップレベルだと思うので、発展途上国への技術移転やODAによる省エネのインフラ整備などを通して発展途上国のCO2削減に貢献できれば、日本の経済的にも、発展途上国の発展にもメリットがあると思うので。

●国が率先して問題に対しての情報を流し、国民に策や手本を示すことです。

(理由) 私も含め、多くの国民が気候変動に対する情報を知らないで、どれほど深刻なのか、また影響が分からないと思います。まずは現在危機的状況にあるということを国民に周知し、もっと関心を持たせることだと思います。また、個人レベルで可能な対策を政府が示すことで、国民が取り組みやすくなると思います。このことが結果的に企業などへ影響を与え、エコ製品の開発につながり、国に返ってくると思います。知らなければ何もできないので、早急に周知すべきだと思ったからです。

●各国が合意に達してそれに向かって努力するために、政府・環境省が指導力を発揮していくこと

(理由) 合意に達しなければ、ものごとが始まらないから。一人一人の努力よりも政府・環境省主導の方が効果を上げることができるから。

●国民一人一人が身近なエネルギー確保に向けての努力を行えるような情報発信が必要と考えます。それは現在の異常気象の原因の一つが地球温暖化であり、その対策はCO2削減が必須となっています。環境線先進

国をめざすわが国にとって環境技術開発は勿論の最重要課題ではありますが、国民の環境（エコ）意識を醸成することも重要です。そのために、エコ活動を行った場合にエコポイントを付与し、地域サービスに利用できるなどの新たな制度を創設し、国・地方公共団体・市民が一体となった取り組みを推進すべきと考えます。

（理由）

●世界中の人が解決しなければいけない問題だと思い、同じ方向を向いて取り組めるようにして欲しい。

（理由）一人の力では世界中をかえることはできないけれど、世界を動かそうとする国連や日本政府を応援したい。将来、人類全てが明るく良い生活をしていることを信じて、日々、個人でできることはしていくが、全体を動かすのは世界中の人々の思いが必要だと思う。

●（CO2削減は）遠い未来の課題ではなく、今現在向きあわなくてはならない問題であること。

（理由）今日この会議に参加して「まだ平気だしそのうち何とかなれば大丈夫」と甘く見ていたけど、先延ばしにしてはダメなんだと思いました。自分ができることは限られているけど何かしらこうどうできて行けたらいいなど。

●「市民の意識改善」ではないかと考えます。国が説得力のある政策を提示することで実現に近づく。自分自身、物心ついた頃から温暖化が進んでいると言われ続けたため、温暖化を言われ始めた頃との差が分からず、実際に進行しているのか実感できない。

（理由）気候変動への理解度、情報のばらつきがあるため、実際に対処するために行動を起こしていない。日本全体で意識改善をし、楽しく無理のない範囲での節電や市民が買いやすいエコ商品を開発することで国レベルでの対策につながる。影響力が絶大なメディアを活用し、変えることができる。

●みどりをふやす、森林バッサイをしない、林業に支援する、枝打をして緑にいい環境を作る、緑化の推進、エコな生活を心がける（節約、節電）

（理由）CO2の直接の削減につながる、酸素を作る、環境が整い生活が豊かになる。病気がへる（ぜんそく、アレルギー等）

●CO2削減。省エネ推進

（理由）このまま温暖化が進むと、海水が上昇し、大自然災害増加、国が水没してなくなる。

未来の子供たちの為に。

●世界の各国、各自治体、個人が、温室効果ガスが地球に与える影響について、共通認識を持ち対策に取り組むことが大切と思う。その為に国や自治体は国民や市民に現状を知らせ、未来をになう子供たちを教育すべきである。

（理由）なぜなら、国が取り組む施策について、実行するのは各個人であり、各個人が理解しなければ実行には移しえないからである。その他。各国で目標を決め、その目標達成度を国連が監査し、資金援助の増減や負担の増減に反映させるべきだと思う。

●各国々が、責任を持って約束を守り、CO2等を削減するために活動することです

（理由）世界全体のCO2排出は、年々増加している中で、減らそうと考え行動し、実現（目標達成）できるように考えるサイクルで日々の努力が重要だと感じました。信頼を得るために、実現（目標達成）させることが必要であると考えます。

●個人が日々の生活の中で無駄を省き、エコを考えながら限りある資源を大切に使うことだと思いません。

（理由）自然はかいや温室効果ガスの排出、気候変動になるからです。世界中に起こりえる災害を止める為にも個人、地域でできるエコ活動に勤めなくてはならないと考えるからです。

●日々の生活の中で一人一人がCO2削減に向けて何ができるか考えること

（理由）現在の温室効果ガスは人間のつくり出したもの。ものがあふれ、便利になった中で、環境破壊について見直す必要があると思ったから。世界が一丸となって最優先課題として改善すべき問題だと思う。手遅れになる前に。

●関心を持つこと

（理由）小さなこと1つ1つに関心を持って知る意識を高める。知らないで生活をするより関心をもっていけば良い方向に向かうと思う。まずは、個人としてできることから取り組むことが大切だと思う。

●1992年にUNFCCCで決めた先進国途上国の区分を見直し国際的関心機関を設立し、各国の現状にあった対策を無理のない範囲で進めること。

(理由) 1992年から20年以上の年月が進み、現状でも途上国という区分だが、資源産出国などで先進国よりもお金を保有している国が増えてきてよりそういった国々も先進国並みの取り込みが必要だと感じた。

●地球のエネルギーには限りがあることを全世界の人々に自覚してもらい、自分だったら何ができるのかを良く考え行動すること。

(理由) 地球のエネルギーに限りがあることを知っている人が少なすぎ。それを知らなくて、今の便利な生活がいつまでも続くと思ってしまっている。個人として何ができるのか考え、行動することでCO2削減に繋がることができる。自家用車の運転を控え、移動は自転車、歩行とできるよう自転車道、歩道の整備を早急をお願いしたい。目指すはデンマークのような・・・。

●地球は個々で成り立っている。ひとりひとりの意識が地球を守る。

(理由) 私だけやっても事態は変わらないと思わずに小さなことから一人一人意識して気候変動を注意・考えていくこと。

●温室効果ガスの排出量に応じて削減の責任を負う。

(理由) 先進国・途上国の別なく自国の温室効果ガスの削減について自己責任で実施するべき。もちろん、先進国にあつては技術提供する義務がある。

●情報の共有やインフラの整備、教育、支援、他の国との対話、個々の意識や力、知恵技術力

(理由) 情報を知ることで様々な対応、支援ができ、未然に災害などをふせぐことができるから。

●①個々の欲望のレベルを下げる ②教育の力、今の地球の現状を知ること ③環境問題をビジネスの対象にすること ④個人の価値観と心の豊かさ

(理由)

●現状をメディア、イベントなどで情報を配信し、早くより多くの人間に伝えること。

(理由) 人づてやこうした絞った場ではまんべんなくことの重要性を伝えられないと思うから。

●あらゆる世代や違いを超えての「教育」

(理由) 他の国や人を思い、自分自身に引きつけて考えることも。他と信頼関係を結ぶことも省エネやレトロな生活を楽しむことも。皆「知る」ことなしには実現できないから。

●身近な個々での取り組みで大きな力につなげる。

(理由) 世界レベルで考えると規模も大きく実践も難しいけれど、世界で考えなくてはいけないほどの重要な問題であると思う。その為にはまず、冷房の正しい使い方、こまめな消灯、自転車公共の交通機関の利用など小さいことを一人一人気をつけて大きな力になるようにすることは大切である。また、積極的に今の状態を知ること意識改革につなげがらと思う。子供にもその意識を教え、国民全体で取り組んでいくべきだと思う。

●知ること

(理由) 知ることによって理解につながり、理解から意志に変えることで行動できるから。

●日常生活の仲での自分の対応努力

(理由) 「気候変動とエネルギー」の大きなテーマであるが自分で努力していること。自動車→カーシェアリング使用

自転車の利用を多くする →希望：街中の自転車レーンを増やしてほしい。省エネ節電→LED照明への切り替え等

●現状を知ること

(理由) 知らないことには、対策もできないから、知ることによって、環境についての関心を持つようになると思うから。環境について話題にするだけでも、今後の対策に繋がっていくと思う。

●気候変動対策として、低炭素経済への移行は必要不可欠だが、私たち一人ひとりが情報共有しないといけないのではないかと。緊急の課題であるがゆえに。認識が大切である。

(理由) No 低炭素 Day をつくったり、キャンペーンをすることで、情報を共有していきたい。COP15パリ会議が成功してほしい。

●国策として優先度を高めた活動が必要だと思います。

(理由) 国民に気候変動がおよぼす将来への影響を周知し参加意識を高めて、少しずつでも国民一人ひとりができることを継続して行っていくよう方針を打ち出すことが大事だと考えます。

●「温室効果ガス排出ゼロ DAY」を設ける。

(理由) 気候変動対策の重要性を広く、市民に知ってもらい「排出量ゼロの日」を実際に体験してもらう。全地球規模まで広げ、再生可能エネなどの技術的援助を途上国へ進めていく。

●国・企業・市民が一体となってこの問題と向き合わないといけない。世界規模で早急に考えないといけない。

(理由) 急速に進む地球温暖化のせいで異常気象が世界各所で起きている。このままではいつか地球上から生物がいなくなってしまうような気がしている。地球がいつまでもいい星であるために温暖化を食い止める対策が早急に必要。

●多様な意見をくみとり合意形成に向けた不断の努力

(理由) ・意見の相違を理由に孤立化させる必要うい感じないから ・意識形成の為の教育情報発信の必要を感じるから

●省エネルギーについての世代を問わない教育意識改革

(理由) 多くの人々はまだ省エネルギーの重要性を理解していない。全ての人々が環境についてを、毎日意識する社会が出来れば、エネルギー使用量は必ず減らすことができる。

●当事者意識の形成・拡散

(理由) 1. 知ることが大事⇒問題を知らない事に議論や考えることも出来ない。2. 生活と密着していること⇒自身の生活、家族の人生との関わりあいがないと真剣には考えられない。3. 一人ではできない⇒仮に一人が自覚しても、世界でアクションを起こさないとインパクトは起きない (ex: グリーンベルト運動 by ワンガリー・マータイ)

●自身の身の回りで出来る事をコツコツと...

(理由) 地球規模の問題は大きすぎるし、難しい事なので個々人が心掛け実践できる範囲で行う。

●自分ができる身近な所からは始める。小さな声でもとにかく声を上げて周囲の人を巻き込む。

(理由) 今回の参加により二酸化炭素の排出量を具体的に示して頂いた。自分にとって他山の石ではないと感じた。大きな事を突然やろうと思っても無理な事。まず、1歩踏み出す。家族や友人なども巻き込む。これが大事だと思う。今日から始める。明日からではない。環境に対する国民の意識改革をするべく、国単位で立ち上がって欲しいと思う。

●現状を把握し、専門家まかせにしないで、地球人全員考え、できることからやってみること。

(理由) 政府がどんなに取り組もうとしても、国民の理解や協力なしでは成し得ない。一人一人が考えて、地域や企業、市民団体 etc. . . 単位での行動になれば何かが変わるのではないと思います。

●市民一人一人の普段から考えていく意識が最も大事。

(市民) 世界レベルもしくは国レベルで考えても身近に感じる事が難しいので、まずは、一人一人が今、出来ることを考えて行動に移していくことが大事な為。

●・現状の認識(資源が無限にある訳ではない) ・各自、各国がお互いを尊重しあいながらできることから少しずつ・今、地球が何となくおかしくなって来ているんだよということを感じさせる教育を行っていく

(理由) ・近い未来を住みやすくするために、今ある資源を有効に使い、将来のために今できることをしていくため

●今日参加して分かったこと。大変なときに来ていること。世界中での異変が人間が使った事で起きてしまった。一日でもはやく対策をとらなければと強く感じた。でもどのようにすれば?一市民としては非力だと...しかし、今日のように同じテーマで世界中の代表がCO2削減について話し合うことはとっても有意義だと思う。ぜひパリに今日の意見を持って行ってほしい。それまで私たちは一市民としてできることからやっていきたいと思った

(理由) 私の子ども又孫が地球で人間として生きていかれるように。昔の子ども達のように外でのびのびとしあそべるようにしたいからです。

●起きた事をただ伝えるだけでなく、工夫して伝える

(理由) 過去に起きたことはもう変えられないが、そのことをただ通えるだけでは同じことを繰り返すだけになってしまう。なにしかしらの工夫をしてもう過ちを繰り返さないようにすることが大切だと思うから

●今、地球環境がどのような事になっている事が大事であり、このまま何もしない事は悪化につながる。

(理由) 普段、「今は平気」という気持ちは最悪の結果をまねく恐れがあるから。

●過剰な二酸化炭素は出さないようにする。私たち一人一人の考えをもたせ、日常からの危機意識をもつ

(理由) 国が日常から危機意識をもたせる事によって、国民に危機感を植えつけていける。

●戦争をなくす。

(理由) イラク戦争では、CO2 1億4,100万t。これは、米国が仕掛けた最悪で最低のこと。ベトナム・湾岸戦争などもう沢山。

●気候変動が原因で、絶滅危機にある野生動物、植物が多くいるので、それらを保護する意識をもつこと

(理由) 原因を作ったのは人間であるから、人間に報いがくるのは仕方がないが、動物の種が少なくなっていくのは今後とてもさびしくなる。人類ばかりの世の中にしたくないため、気候変動が理由で死んでいく動・植物をなくしていく必要があると思うから

●日本の四季をとりもどすこと。世界の国々が自然を保全すること。

(理由) 全ての生命は自然の中で育まれてきたという根本的なことを現代社会は忘れていて。あるいは、後まわしにしているとおもう。時計の針をまきもどすように、自然環境をいつくしむ気持ちを、全世界の人がもてるようにできたらとおもう。

●一人一人の意識を変えていけば、小さなことでも世界が行えば大きな成課が得られる。

(理由) 全世界の人が同じ意識を持ってこれからの過ごしてゆけば、今の急げきな気象をもっと穏やかなものにしていけると思う。

●排出抑制より、技術革新だ

(理由) 排出抑制は実効的な手段に乏しいので、技術革新に期待するしかない。

●CO2削減の数値目標とその意義を市民、事業者、政府が共有すること。

(理由) 2100年にCO2排出量をゼロにする意味の重要性と、そうなった場合の社会・世界・個人の姿、生活スタイルを具体的に想像し、今できること、しなければならぬことを明確にイメージすることが問題解決の第一歩だと思う。

●一人一人が感心を持ち、現在の状況、目標を知ること。

(理由) 気候変動とエネルギーの問題を解決するためには、全員で取り組まないと解決出来ないと思いました。そのためには、もっと多くの人がこの現状を知る事が大事なのかなと思いました。

●日本が世界に対し手本をしめす。

(理由) 資源の無い日本だからこそ行動で手本をしめす。

●これからのことを考えて人それぞれがきょうみをもつ

(理由) 全員でその問題を共有していくことがこの問題の解決策だと思う

●気候変動の対策

(理由) 空気をきれいにして病気をふせぎよりよい生活が得られる。

●現状認識と情報の共有

(理由) 一人一人の意識改革が世論となって作用すると思うから。精神論だけでは無意味とも考えるが、今回の開催実績を踏まえて問題を取り組みたい。